

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地															
北海道医薬専門学校		平成7年12月5日		館山 昭		〒001-0024 札幌市北区北24条西6丁目2番10号 (電話) 011-716-1950															
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地															
学校法人 美専学園		昭和62年12月4日		高橋 英雄		〒001-0024 札幌市北区北24条西8丁目1番12号 (電話) 011-756-0777															
分野	認定課程名		認定学科名			専門士	高度専門士														
医療	医療専門課程		診療放射線学科			平成6年文部科学省 告示第84号	-														
学科の目的	病院と連携し放射線技術の高度化、医療機器の複雑化に対応出来る専門的知識や技術を習得させ、職業に直結した即戦力を身につけた診療放射線技師を育成する																				
認定年月日	平成26年3月31日																				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技														
3	昼間	3045時間	2010時間	90時間	630時間	315時間	-														
生徒総定員		生徒実員	留學生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数															
120人		119人	0人	6人	31人	37人															
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 試験・論文・レポートその他の方法並び通常点(提出物等)を全て 勘案する																
長期休み	■学年始:4月1日～4月6日 ■夏 季:7月17日～8月17日 ■冬 季:12月25日～1月8日 ■学年末:2月19日～3月31日			卒業・進級 条件	各学年での全教科目を履修し、所定の単位を修得した者に認定 会議の議を経る。																
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個別面談実施 本人及び保護者への連絡・相談			課外活動	■課外活動の種類 体育的行事、儀式的行事、普通救命講習、札幌大標本館見学 ■サークル活動: 無																
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) 医療機関 ■就職指導内容 本人の希望を最優先とするが、学業成績及び本人の性格を判断 し、就職先を決定 ■卒業生数 : 39 人 ■就職希望者数 : 35 人 ■就職者数 : 35 人 ■就職率 : 100 % ■卒業生に占める就職者の割合 : 89.7 % ■その他 ・進学者数: 1名 ・国家試験不合格者 3名 (平成 29 年度卒業生に関する 平成30年5月1日 時点の情報)			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>診療放射線技師</td> <td>②</td> <td>39 人</td> <td>36 人</td> </tr> <tr> <td>第1種放射線取扱主任者</td> <td>③</td> <td>7 人</td> <td>3 人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載 する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等					資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	診療放射線技師	②	39 人	36 人	第1種放射線取扱主任者	③	7 人	3 人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																		
診療放射線技師	②	39 人	36 人																		
第1種放射線取扱主任者	③	7 人	3 人																		
中途退学 の現状	■中途退学者 2 名 ■中退率 1.7 % 平成29年4月1日時点において、在学者120名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者118名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 日常生活指導と保護者との連携																				
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※学科特待、AO特待、適性証明特待、ファミリー特待、パブリック奨学、スカラシップ奨学 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																				

第三者による 学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>
当該学科の ホームページ URL	URL: http://www.iyaku.ac.jp/

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本校の各学科の分野におけるプロ養成に必要な基礎から実践まで一貫した教育を施すため、地域企業や外部人材を活用し、より実践的な教育課程を編成するため積極的に企業等と連携する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

企業からの推薦による。構内に於いては、学校運営長である校長が主幹として委員会を開催する位置づけとする。委員会には学科長または教育編成の係が出席し、学科の教育課程編成の際の科目設定、単位数等に反映されている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
西尾 正道	独立行政法人国立病院機構 北海道がんセンター 名誉院長	平成27年4月1日～平成31年3月	①
佐藤 真一	見聞録 代表	平成27年4月1日～平成31年3月31日(4年)	③
新谷 文隆	日本未病システム学会 評議委員 有限会社 キューズ・エー	平成27年4月1日～平成31年3月31日(4年)	③
品川 祐基典	医療法人社団 木色の木もれ日 肝臓クリニック札幌 事務長	平成28年4月1日～平成31年3月31日(3年)	③
関澤 充規	全国国立病院療養所 放射線技師会 理事 独立行政法人国立病院機構 北海道がんセンター 診療放射線技師長	平成28年4月1日～平成31年3月31日(3年)	③
坂本 美和子	独立行政法人国立病院機構 北海道医療センター 教育主事	平成29年4月1日～平成31年3月31日(2年)	③
真鍋 尚美	社会福祉法人札幌光明園 まこと保育所 理事長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	①
木村 貴裕	社会福祉法人幸友福祉会 白楊みどり保育園 園長	平成30年4月1日～平成31年3月31日(1年)	③
館山 昭	北海道医薬専門学校 校長		
太田 雅子	北海道医薬専門学校 教務部長、医療事務学科長 薬業学科長		
小林 忍	北海道医薬専門学校 診療放射線学科長		
実原 美和	北海道医薬専門学校 看護学科長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回、前期と後期に実施(毎年6月、2月)

(開催日時)

第1回 平成30年6月20日 16:00～17:00(予定)

第2回 平成31年2月27日 16:00～17:00(予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

最新の医療機器・技術に関し基礎的知識の十分な理解が必要である、との意見を踏まえ教務会議にて検討次年度の教育課程に反映出来るようにする。特に「診療画像機器学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」においてデジタル部門の強化を図る。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

医療人として保健・医療・福祉の向上のために必要な知識と技術を持つ人を講師とする。
それにより社会及び医療に貢献できる診療放射線技師の育成を目指す。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

①職業教育を実施するためのカリキュラムの検討、作成 ②学生に対する授業・演習・実習の実施 ③講義・演習・実習用教材の検討、作成 ④講義・演習・実習の学生評価

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
超音波検査学実習	超音波診断装置を実際に操作して画像診断法などを学ぶ。 また、検査を通して他職種との関連を学。	医療法人 萬田記念病院

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 教員は学校法人美専学園就業規則第57条に則り、業務遂行能力や学生指導能力の向上、最新の業界情報収集を図る為に研修を受講しなければならない。教員の経験年数や担当学科、専攻等を考慮し、研修計画を策定し、研修を受ける機会を積極的に設ける。また必要に応じて学校内、学校外で情報を共有する為、研修報告書の開示や報告会などを実施する。

(2) 研修等の実績
 ① 専攻分野における実務に関する研修等
 診療放射線技師基礎技術講習会(平成30年2月25日)
 放射線撮影に関する基礎的技術の修得
 超音波技術講習会(平成29年11月9日)
 授業参観その後授業内容・教育方法について指導・助言
 ② 指導力の修得・向上のための研修等
 全国診療放射線技師養成施設協議会(平成29年6月30日～7月1日)
 他校及び有識者との職業教育についての意見交換により、学生への指導方法などについて指導・助言を受ける
 全国私立診療放射線技師養成施設長会議(平成29年10月27日～28日)
 他校及び有識者との職業教育についての意見交換により、学生への指導方法などについて指導・助言を受ける

(3) 研修等の計画
 ① 専攻分野における実務に関する研修等
 臨床実習病院において各種放射線検査の基礎技術の再確認
 (7月～9月の一定期間(実習先により異なる))
 放射線技師会主催による、業務拡大に伴う統一講習会参加予定(10月または11月)
 ② 指導力の修得・向上のための研修等
 全国診療放射線技師養成施設協議会(平成30年6月15日～6月16日)
 全国私立診療放射線技師養成施設長会議(平成30年10月26日～27日)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針
 自己評価と学校関係者評価を実施することで、学校の現状と課題を的確に具体的に把握して学校運営の改善、強化を目指すものである。また、同時に関係する業界、企業等との信頼関係を深めることを基本の方針としている。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	学校の教育理念・目的・人材育成は明確になっているか
(2) 学校運営	教育活動に関する情報公開がなされているか
(3) 教育活動	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか
(4) 学修成果	就職率の向上が図られているか
(5) 学生支援	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか
(6) 教育環境	防災に対する体制は整備されているか
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動は適性に行われているか
(8) 財務	財務について会計監査が適性に行われているか
(9) 法令等の遵守	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	留学生の受け入れ・派遣について戦略を持っておこなっているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況
 (5) 学生支援に関する質問。本校独自の奨学金制度の充実をはかり、全学科へ拡充を考慮。(6) 教育環境について質問。設備・機器についての経年劣化・機器の不具合などに拠る教育環境の悪化に対し新年度に向けパソコンなど情報処理関連機器の買い換えを行う。(9) 法令等に遵守について質問助言。学生個人に対する個人情報、学生同士の個人情報保護について医療人としての対応方法について助言。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
河村和義	(株)アトリエK一級建築士事務所	平成25年11月1日～平成30年3月31日(4年)	企業関係者
櫻井俊二	(有)I.B.DESIN	平成25年11月1日～平成30年3月31日(4年)	卒業生
山森鉄雄	山森鉄雄司法書士事務所	平成25年11月1日～平成30年3月31日(4年)	企業有識者
細木 実	細木整骨院	平成30年11月1日～平成31年3月31日(1年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
 (例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
 (ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())6月を目途にホームページで公表
 URL: <https://www.iyaku.ac.jp> (北海道医薬専門学校)

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校の状況(課題や教育活動の取組)を広く理解してもらい、さらに企業等との信頼関係を深める。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	経営方針、学校の特色、人材育成の特色
(2) 各学科等の教育	カリキュラム、収容定員、学修成果
(3) 教職員	各教員の担当科目、教員の専門に関する情報
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職支援への取組状況、実習等の取組情報
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況
(6) 学生の生活支援	学生支援への取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱
(8) 学校の財務	収支計算書
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	留学生の受け入れ・派遣状況
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <https://www.iyaku.ac.jp> (北海道医薬専門学校)

上記HP上において、自己点検・自己評価、学校関係者評価委員会報告書、学校法人美専学園財務状況、教育活動情報を公表している。

授業科目等の概要

(医療専門課程 診療放射線学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			数学	基本的な数式の計算について学び、さらに、指数、対数、三角関数の高度な計算について学習する。	1通	60	2	○			○			○	
○			物理学	物理系教科を学ぶために必要な物理学の基礎を学ぶ。力学・熱学・電気磁気学・波動光学の4分野を理解する。	1前	60	2	○			○			○	
○			化学	化学の基礎知識を身につけることを目的とし、自然現象、実験事実を理解しながら、化学物質の性質や医薬への応用について興味を深めていく。	1通	60	2	○			○			○	
○			生物学	放射線生物学を理解するための基礎について学び、細胞・個体の構成と機能、初期発生、遺伝情報、生命維持、生態系などについての知識を深める。	1前	30	2	○			○			○	
○			心理学	医療等健康に関する心理学の知見を身につけるとともに、医療現場に関連のある心理学的諸問題を理解し、医療現場での人間関係に活かす。	1前	30	2	○			○			○	
○			英語 I	総合的に英語をとらえて、国際化時代に対応できるように授業を展開。結果として、TOEICのスコアが上がるよう知識を深める。	1通	60	2	○			○			○	
○			医学英語	医学における解剖学、疾病に関する医学英語を中心に解説する。医学用語の構造の観点から医学用語の意味の成り立ちを理解する。	1前	30	1	○			○		○		
○			保健理論	生活習慣病の理解を深め、疾病の予防、早期発見及び健康維持・増進を医療人として理解する。	1前	30	1	○			○			○	
○			医学概論	医学全般についての基本的な知識の概要を学ぶ。専門職に求められる「考える、意見を持つ、判断できる」の3要素を体得するように努力する。	1通	30	2	○			○			○	
○			解剖学	人体解剖学は必須の知識である。位置関係および臓器の特徴を理解し、迅速な撮影で適切な画像が得られるようにする。	1後	30	2	○			○			○	
○			生理学及び生化学	生命の維持に必要な生体機能の概要を理解し、生体の各器官の生理機能と生化学的過程の概略を学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	

○		病理学 I	各器官・臓器の主な疾患の原因及び過程・転帰など、特にX線診断及び放射線治療の対象となる疾患の病理を学ぶ。	1後	15	1	○			○							○
○		衛生学及び公衆衛生学	予防医学、社会医学としての衛生学、公衆衛生学の基礎、概論を学ぶ。放射線医学、診断の予防医学、社会医学的意義を理解する。	1前	30	2	○			○							○
○		エックス線解剖学 I	解剖学の知識を元にして、表示されたエックス線画像について人体構造との関連を理解する。	1通	60	2	○			○							○
○		介護学	医療における介護の役割と機能を理解し、援助の重要性と基礎的介護技術を学ぶ。	1後	15	1	○			○							○
○		放射線生物学	放射線の影響を細胞から個体レベルまで取扱い、生物作用の機序について学ぶ。腫瘍の放射線生物学から放射線治療への応用について理解を深める。	1後	30	2	○			○							○
○		放射線物理学	放射線全般にわたり、物理学の基礎を学ぶため、原子物理学概論、放射線の発生及び放射線と物質との相互作用について学ぶ。	1後	30	2	○			○							○
○		医用物理学実験	物理学や放射線物理学で取り扱う項目は実験に基づいて考察することが理想的である。重要な項目を選び、内容を理解する手助けとなる実験を行う。	1後	45	1				○	○						○
○		情報処理学	基本スキルの習得、学生に必要な文章作成、レポート作成、関数を活用した表計算、グラフ作成、スライド作成といった実践力・応用力を養う。	1通	30	2	○			○							○
○		医用工学 I	電気・磁気現象の基本知識を得、現象を記述する数量を理解する。直流・交流回路の解法を理解する。回路の各種計算の応用力を養う。	1通	60	2	○			○							○
○		放射線概論	放射線物理学、放射化学、診療画像機器工学などで、「放射線とは何か」を理解するための基礎的な知識を学ぶ。	1前	30	2	○			○							○
○		エックス線画像技術学 I	X線透視・撮影に関する基礎的技術及びX線解剖学的知識、人体各部位の透視・撮影法について学ぶ。	1前	30	2	○			○							○
○		エックス線画像技術学 II	エックス線画像技術学 I の知識を活用し、撮影の基準、撮影規則、目的、撮影方法について理解する。被ばくの低減について理解する。	1後	30	2	○			○							○
○		エックス線画像技術学実習 I	エックス線画像技術学 I で学んだ事を元に、ファントムを用いて、より実践的な撮影法について実習する。	1後	45	1				○	○						○
○		診療画像機器工学 I	診断用エックス線機器等の構造、動作原理を理解し、機器に関する検査法、管理法について学ぶ。	1前	30	2	○			○							○

○		診療画像機器工学Ⅱ	診療画像機器工学Ⅰで学んだ事を元に、画像情報の収集方法と性能について学習する。デジタル機器の原理、構造、特性等について学ぶ。	1後	30	2	○		△	○	○			
○		放射性医薬品学	基礎的知識である放射性壊変、放射性同位元素(RI)、放射平衡から放射性医薬品の種類・管理・取扱法を学ぶ。	1後	30	1	○			○	○			
○		画像工学Ⅰ	エックス線と検出体の反応を理解し、適切な画像を得るための知識を習得することを目的とする。また、得られた画像の評価法の基礎について学ぶ。	1後	30	2	○			○	○			
○		統計学	情報を分析する統計的方法を理解し、保健医療の分野におけるデータ収集、分析および意思決定を科学的に行う能力を身につけることを目的とする。	2後	30	1	○			○	○			
○		英語Ⅱ	医療・放射線・画像技術などに関する比較的読みやすい英語文献を読み親しむことにより、英文読解力を養うことを目的とする。	2前	30	1	○			○	○			
○		病理学Ⅱ	病理学的変化を形態学的に解析し、これと機能異常との関連性を学び、また病理学各論において細胞・組織・臓器に特有の病変を学ぶ。	2前	15	1	○			○			○	
○		臨床医学概論	臨床医学では、各種疾患の病態・症状・診断・治療について学習する。	2通	30	2	○			○			○	
○		臨床薬理学	医薬品の種類と薬理作用を学び、薬の扱い方・放射線との併用療法などの応用効果について学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	
○		エックス線解剖学Ⅱ	血管解剖学的位置関係を理解し、血管造影検査、CT、MRI検査における血管画像を三次元的に学ぶ。また眼底検査の画像理解も行う。	2前	30	1	○			○			○	
○		放射線看護学	診療放射線技師として患者さんに対する接し方や会話について学び、医療人として知っておかなければならない看護学の基礎について学ぶ。	2後	30	2	○			○			○	
○		病態制御学	疾病の起こる仕組み、疾患別の症状と徴候の原因、発生機序、診断基準、検査法について理解することを目的とする。副作用の評価能力を身につける。	2後	15	1	○			○			○	
○		放射化学	放射性同位元素の諸性質について、一般的な取り扱い方法、測定方法について学ぶ。	2後	30	2	○			○			○	
○		応用数学	各検査の画像再構成、画像解析等に必要なフーリエ変換を使用し、理論的考察を理解できるように物理数学を学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	
○		放射線計測学	放射線計測に関する基礎技術として放射線量、放射能、エネルギーの計算法を習得し、併せて診断、治療、放射線防護に関する計測法を学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	

○		放射線計測学 実験	放射線測定機器の原理、構造、特性及び放射線の性質について実験によりさらに深く理解する。	2後	45	1				○	○			○			
○		医用工学Ⅱ	半導体素子の構造、動作原理、特性を習得する。増幅、発振、変調、復調、電源等の概要を理解する。パルス信号を扱う各種回路の基本を理解する。	2通	60	2	○				○						○
○		医用工学実験 Ⅰ	医用工学Ⅰ及び医用工学Ⅱで学んだ事柄を実験により理解し、習得する。	2前	45	1				○	○						○
○		医用工学実験 Ⅱ	医用工学Ⅰ及び医用工学Ⅱで学んだ事柄を実験により理解し、習得する。	2後	45	1				○	○						○
○		エックス線画像技 術学Ⅲ	一般撮影、造影検査、X線CT検査について統括的に理解を深め、診療画像機器学や基礎医学分野との知識を統合して学ぶ。	2前	30	2	○				○						○
○		エックス線画像技 術学Ⅳ	一般撮影、造影検査、X線CT検査について統括的に理解を深め、診療画像機器学や基礎医学分野との知識を統合して学ぶ。	2後	30	2	○				○						○
○		エックス線画像技 術学実習Ⅱ	一般撮影、胃造影検査を模擬的に実習し、技師の立場と患者の立場を理解し心構えを学ぶ。救急医療の対応技術、安全管理について理解を深める。	2後	45	1				○	○						○
○		磁気共鳴断層 技術学Ⅰ	MRIの基本原理であるNMR現象の解説と磁気共鳴画像診断装置(MRI)の基本的な撮像原理を理解する。	2後	30	1	○				○						○
○		超音波検査学	超音波画像の理解と共に、検査に必要な各領域別の超音波解剖、代表的な疾患について講義を行う。	2後	30	2	○				○						○
○		診療画像機器 学Ⅲ	デジタル診療画像機器の動作原理、画像処理の特徴、画像表示方法、画像の記録保管方法について学習する。	2前	30	2	○				○						○
○		診療画像機器 学実験	実際のX線装置の動作特性、装置の適正な使用方法、X線撮影の機器の性能評価を中心に医療関連機器の管理方法を含め実験を行い理解を深める。	2前	45	1				○	○						○
○		核医学概論	核医学検査に使用される装置の概要、検査の目的、原理、方法、放射性医薬品を理解し、得られる計測データおよび核医学画像について学習する。	2前	30	1	○				○						○
○		核医学検査技 術学Ⅰ	核医学検査の目的、原理、方法、放射性医薬品を理解し、これらから得られる計測データおよび核医学画像について学習する。	2後	30	2	○				○						○
○		核医学検査機 器学	核医学検査に使用される装置の概要、検査の目的、原理、方法、放射性医薬品を理解し、得られる計測データおよび核医学画像について学習する。	2後	30	2	○				○						○

○		放射線治療概論	放射線生物学的なアプローチから放射線治療の有用性について学ぶ。放射線生物学、医用物理学から放射線治療の基礎までの流れを理解して欲しい。	2前	30	1	○			○								
○		放射線治療技術学	放射線治療の、理論及び対象疾患の概要及び放射線照射技術及び線量計算法の実際を学ぶ。	2後	30	2	○			○								○
○		放射線治療機器学	各種放射線照射装置の構造、原理、特徴を、理解し、臨床応用の基礎を学ぶ。関連機器について知識を深める。	2後	30	2	○			○								○
○		画像工学Ⅱ	医用画像を処理対象として、標本化、階調処理、フィルタリング処理、フーリエ変換等のデジタル画像処理の方法について学ぶ。	2前	30	2	○			○								○
○		画像工学実験	アナログデータからデジタルデータへの変換や、医用機器で使われているデータ処理の加工理論を体験することにより理解を深める。	2前	45	1				○	○							○
○		医用画像情報学Ⅰ	医用画像の成り立ちに必要な画像情報の理論を理解し、画像解析、評価、処理並びに医療情報システムの知識を学ぶ。	2後	30	2	○			○								○
○		基礎医学大要	基礎医学に関する事を総合的に統括し医療人としての理解を深める。	3前	15	1	○			○								○
○		放射化学実験	放射性同位元素の諸性質について実験を通して学ぶ。また取り扱い、管理方法についても学ぶ。	3前	45	1				○								○
○		エックス線画像技術学演習	画像診断に関する講義で学んだことを基に、診療画像機器学、基礎医学、画像工学の知識を統合できるよう総合的に演習する。	3後	30	1				○								○
○		エックス線CT画像技術学	CTの動作原理、画像処理の特徴、表示方法、マルチスライス再構成理論、3D画像構築について学ぶ。	3前	30	2	○			○								○
○		エックス線CT画像技術学実習	実際にCT装置を使用して原理、画像再構成方法、機器の特徴などについて学ぶ。	3前	45	1				○	○							○
○		磁気共鳴断層技術学Ⅱ	MRIの基本原理と磁気共鳴画像診断装置の基本的な撮像原理を理解すると共に、高速撮像法などの最新技術についての概要を解説する。	3前	30	1	○			○								○
○		超音波検査学実習	超音波診断装置を実際に操作して画像診断法などを学ぶ。	3前	45	1				○	○							○
○		画像診断学	どのような画像が診断に役立つかを学ぶ事で、診る者の立場から真によい画像についての理解を深め、更なる技術の向上を図る。	3前	30	2	○			○								○

○		核医学検査技術学Ⅱ	インボ検査における放射性医薬品の基本性質と検査法について学ぶ。	3前	30	2	○			○										
○		核医学検査技術学演習	核医学検査技術に関する講義で学んだことを基に、放射化学、基礎医学、臨床薬理学の知識を統合できるよう総合的に演習する。	3前	30	1		○		○				○						
○		放射線治療技術学Ⅱ	放射線治療の基礎と臨床応用及び適応疾患・照射法について学ぶ。	3前	30	2	○			○										○
○		放射線治療技術学演習	放射線治療技術に関する講義で学んだことを基に、放射線生物学、基礎医学の知識を統合できるよう総合的に演習する。	3後	30	1		○		○				○						
○		医用画像情報学Ⅱ	画像評価方法、デジタル画像処理、電子カルテなどについて総合的に学ぶ。	3後	15	1	○			○				○						
○		医療情報管理学	医療現場でのコンピュータや情報ネットワークを活用して病院内の情報を管理する技術を学ぶ。	3前	30	2	○			○										○
○		関係法規	診療放射線技師の法的立場を熟知し、関連法令の趣旨及び重要性を認識する。	3後	30	2	○			○				○						
○		放射線安全管理学	放射線防護の視点から各種放射線の特性と人体への影響を学び、放射線安全管理の考え方（目標、方策等）を理解し、放射線安全管理の基礎を学ぶ。	3前	30	2	○			○				○						
○		放射線安全管理学実験	放射線の安全管理に用いられている基本的な量の計測技術と、システムとしての放射線防護の立案・設計に必要な技術を体得する。	3前	45	1				○	○			○						
○		医療安全管理学	医療事故や医療過誤の事例とその原因およびそれらの対処方法を学習し、チーム医療の一員としての責任と役割を理解する。	3前	15	1	○			○				○						
○		臨床実習	学内での講義及び実習、実験を元にして、診療放射線技師として必要な実践技術を習得する。	3前	450	10				○				○						○
合計				78 科目				3045単位時間(132単位)												

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
各科目、前・後期出席率80%以上、各科目の定期試験結果“可”以上の成績	1学年の学期区分	前期・後期	
	1学期の授業期間	15週	

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。